あった．

おわりに

この調査を行なうにあたって，資料を提供いただいた函館・室蘭・青森・江差・浦河・寿都・倶知安・苫小牧・森・深浦・むつ・弘前の各気象官署．ならびに，函館・奥尻島の航路標識事務所に対し，また調査にあたり御指導いただいた．函館海洋気象台野口予報課長はじめ課員一同ならびに助言いただいた東京航空地方気象台の神子予報官に感謝の意を表します．

文　　献

1）力武恒雄（1958）気圧じょう乱について（1），研究時報，**10**，826～833.
2）力武恒雄（1960）気圧じょう乱について（2），研究時報，**12**，71～80.
3）力武恒雄（1961）気圧じょう乱について（3），研究時報，**13**，288～294.
4）力武恒雄（1961）気圧じょう乱について（4），研究時報，**13**，845～860.

講演企画委員会だより

48年度以降の歩みの概要をのべてみよう．少しでも学会が会員のものとして役立つようにと念願したものであるから，不備の点やお気づきの点をどしどし連絡して頂きたい

1. 支部活動について

春と夏の講演会は全部シムポジウム形式とし，そのうち一つは地方支部で行なうこととした．したがって，年一回（秋）地方でもたれる大会のシムポジウムとあわせて計画すると，ほぼ2年に一回は地方開催ということになるから，地方独自の問題の取り組みを支援できるものと思う．

2. 大会のもち方

春秋の総会と大会を昔の3日3会場にひき戻した．1講演を15分以内にしぼった代りに，座長の採量によって各セションの終りに30分ないし1時間（1日1時間30分）の特別討論時間を設けることとした．

3. シムポジウムのもち方

1）啓蒙的講演会形式
2）目的設定形式
　a）総合報告型
　b）original paper 型

を適宜くみあわせることとした．試みに，48年度のものをみると，春の総会の AMTEX は2）のb），夏に関西支部で計画しているメソスケールは2）のa）であり，秋の大会のものは1）にするか2）にするか検討中である．